

教材名：海とともに生きる

主題名：自然とともに生きる

内容項目：D (20) 自然愛護

- 1 **ねらい** 自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然愛護に努めようとする心情を育てる。

2 **授業展開例（ゲストティーチャーをGTと示す）**

学習活動（主な発問と予想される生徒の反応）

◇ **海に関連した環境問題について話し合う。**

- ① あなたは海に関するどんな環境問題を知っていますか。

・海面上昇 ・砂浜のゴミ ・プラスチックゴミ汚染

◇ **映像資料集（小学校中学年）「15 泣き砂の浜を守る」（インタビュー前半）を視聴し、教材を読んで話し合う。**

- ② 重油をため息混じりにすくい上げたとき、どんなことを考えたのでしょうか。

・いくらすくってもなかなか元の砂浜には戻らない、なぜこんなことに
 ・いったいどれだけすればきれいになるのか
 ・たった一隻の沈没で海がこんなにひどい状況になるなんて許せない
 ・大変なことになった 元の美しい海に戻るのだろうか

- ③ そんな中、たった一匹のヤドカリの姿が気持ちをふっきれさせ、さわやかな気持ちにさせたのは、なぜでしょうか。

・汚れてしまった海でも小さな命が生きていることに希望を感じたから
 ・絶望の中にいたのに、海で生きる生き物の生命力に気付いたから
 ・やっている作業が命を守ることに確実に繋がっていると気付いたから
 ・自分もできることをやっていきたいと思えたから

◇ **自分自身を見つめる。**

- ④ 人間と自然が共に生きていくために大切なことは何でしょうか。

・小さな生きもの達も自分達と同じように生きていることを忘れないでおくこと
 ・自分の行為が自然界やそこに生きる命に繋がっていくのだと考えて行動すること

◇ **GT（または映像資料後半のインタビュー）の話を聞き、今日の学習で気付いたことや考えたことを書く。**

3 **指導上の留意点及び工夫**

- ・GTの話では、この出来事の経緯を知っている方や実際に清掃作業に関わった方の話が聞けると効果的である。また、GTに質問したり考えを伝え合ったりする時間を確保しておく配慮も大切である。

4 **参考資料**

- ・映像資料集（小学校中学年）「15 泣き砂の浜を守る」

教材名：海とともに生きる	
主題名：自然とともに生きる	内容項目：D (20) 自然愛護

- 1 ねらい 身近な環境問題を手がかりとしながら、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然を愛護しようとする心情を育てる。

2 授業展開例（ゲストティーチャーをGTと示す）

学習活動（主な発問と予想される生徒の反応）

◇ 知っている環境問題について話し合う。

- ① あなたが知っているもしくは聞いたことがある環境問題にはどのようなものがありますか。

- ・温暖化現象
- ・工場排水の問題
- ・プラスチックゴミの削減
- ・PM2.5の影響による大気汚染
- ・ゴミの埋め立て

◇ 教材を読んで話し合う。

- ② 重油が羽咋の沿岸に漂着したことによって、どのような問題が生じたでしょう。

- ・海の生き物が重油に汚染され、漁ができなくなり、漁師は生計を立てることができなくなった
- ・地域住民が大切に思っていた故郷の美しい海が汚染されてしまい、悲しい気持ちになった
- ・美しい海を見に来る観光客が減ってしまった
- ・美しい海を未来の子どもたちに残してあげられない可能性が生じた

- ③ 環境問題に取り組むことの重要性が叫ばれているにもかかわらず、なかなか改善に向かわないのはなぜでしょう。

- ・自分には関係ないと思っている人たちがたくさんいるから
- ・日々の暮らしの中で環境の変化による影響を実感することが難しいから
- ・これまで通りの暮らしを続けるほうが便利で楽だと思ってしまうから
- ・一度破壊された環境を元通りにするのは長い年月を必要とするから

- ④ 今日、私たちは、なぜ環境問題について考えていく必要があるのでしょうか。

- ・遠く離れたところで起こっている環境問題は、実は自分たちの生活につながっていることなので、自分たちのこととして考えていかなければならないから
- ・今の生活では特に変化を感じないかもしれないけれども、環境問題は、未来に大きな影響を与える問題だから

◇ GTから環境問題の現状について話を聞く。

3 指導上の留意点及び工夫

- ・①では今までに学習してきた環境問題の内容を想起させるとよい。
- ・②では生徒から出てきた様々な問題を観点別（例 住民、漁師、環境、生態系、産業）に分類しながら板書し、多面的・多角的に問題を捉えられるようにする。
- ・②ではグループで意見を出し合い、生徒たちに意見を整理させ、グループごとに発表させることも考えられる。
- ・③で揺さぶり発問をし、環境問題に対する自分の立ち位置を確認させ、④の発問について考えさせるようにする。
- ・GTを招くことが難しければ、本やインターネットからの情報などを活用し、生徒の見方や考え方が広がるように工夫をするとよい。